

2025年度 事業報告書

自 2025年4月1日

至 2026年3月31日

2025年度 4つのトピックス

1. DEAR 応援月間企画「With DEAR2025～あなたと『ともに』DEAR と『ともに』」を実施し、109件、総額985,500円のご寄付を集めることができました。また期間中に3つの講座をオンラインで行い、86名に参加いただきました。ご協力いただいたみなさま、ありがとうございました。
2. 時事問題を開発教育の視点から扱い、教室や地域などで、タイムリーに学ぶためのメディア・リテラシー教材（無料ダウンロード）「Global Express」、「第24号参院選」と「第25号イランへの攻撃」の2件を発行し、あわせて231件のダウンロードがありました。時事問題について気持ちや意見を共有し学ぶきっかけを広く提供しました。
3. 気候変動対策としての電気エネルギーへのシフト化や自然エネルギー活用の名のもとに、自然環境破壊と人権侵害が生じている現状から、改めて持続可能な社会や気候変動対策を考える「気候変動対策と開発教育（仮）」教材を作成しています。今年度は、FoEJapanの協力を得てフィリピンにおける現地調査を実施し教材作成に反映させたほか、d-lab分科会で報告しました。
4. d-lab2025（第43回開発教育全国研究集会）は、会員のための会員によるd-labとして、これまで二日間開催していた日程を一日とし、自主ラウンドテーブルと実践研究・報告（全18プログラム）、分科会（5コマ）を中心に実施し、全国各地から130名程（スタッフや関係者含む）の参加がありました。参加者からは、新たな知識や情報の習得、志を共にする仲間との出会い、授業でのアプローチや方法について学べた、などのコメントがありました。



認定NPO法人 開発教育協会 (DEAR)

もくじ

事業の概要

1. はじめに～2025 年度をふりかえって 2
2. 各種事業報告 4
 - I. ネットワーク事業 4
 - II. 実践・研究事業 5
 - III. 情報・出版事業 6
 - IV. 人材育成事業 8
 - V. 政策提言事業 9
 - VI. その他の事業 10
3. 組織運営に関する報告 10
 - 1) 会報「DEAR ニュース」の編集・発行 11
 - 2) サポーターの募集 11
 - 3) DEAR 応援月間企画「With DEAR」 11
 - 4) DEAR members の発行 12



3月には改訂版「豊かさの開発」発行！多様性、豊かさ、民主的参加などをテーマとしています。

処務の概要

1. 会員に関する事項 13
2. 役員等に関する事項 13
3. 会員総会に関する事項 14
4. 理事会に関する事項 14
5. 評議員会に関する事項 15
6. 2025 年度事業評価・2026 年度計画会議 15
7. 各種委員会に関する事項 15
8. プロジェクト・チームに関する事項 15
9. 職員に関する事項 16
10. インターン・ボランティアに関する事項 16
11. 会員団体に関する事項 16



d-lab2025 は計 130 名が参加！



5月に、富坂キリスト教センター別棟に引っ越ししました！

資料編

- 資料 1. メディア掲載・取材協力など 17
- 資料 2. 名義後援・協力の実績一覧 17
- 資料 3. 他団体への賛同・協賛の実績一覧 18
- 資料 4. 講師派遣の実績一覧 18



フィリピン・パラワン島にて女性グループにお話を聞きました。

1. はじめに～2025年度をふりかえって

世界の大きな動きの中で

2025年度は、国際政治の不安定化が一層顕著になった一年でした。ロシアによるウクライナ侵攻は長期化し、イスラエルとハマスの戦闘は停戦に至ったものの、イスラエルと米国によるイラン攻撃が開始され、湾岸諸国が戦場となりました。

こうした情勢は、日本にとっても決して無関係ではありません。アメリカの軍事的な同盟国である日本は、地政学的にも影響を受けやすい立場にあり、石油に依存する私たちの生活にも大きな影響が及んでいます。また、米国と中国という大国間の緊張関係においても、日本はその間に位置し、多くの米軍基地を抱える当事者の一つといえます。

さらに、地球規模の喫緊の課題である気候変動対策についても、温室効果ガス排出量が世界第2位である米国のパリ協定からの脱退は、国際的な取り組みを弱める可能性があります。

加えて、デジタルメディアや生成AIの急速な発展は、人間の「知性」や教育のあり方に大きな揺らぎをもたらしています。情報があふれる中で、その真偽はますます見えにくくなり、「何でも答えてくれる」AIとの向き合い方や、生身の体験の価値をどのように捉えるかが問われています。

日本国内に目を向けると、先の参議院選挙では「日本人ファースト」を掲げ、外国人に対するヘイトデマを拡散し、「主権在民」の理念に疑問を投げかける政党が議席を伸ばしました。一方で、日本初の女性首相が誕生したものの、ジェンダー保守や軍事強化を掲げる路線もあり、単純に祝福できる状況とは言えません。さらに、物価高や都市部の地価高騰が進む一方で賃金の上昇は追いつかず、生活格差の改善も見通しにくい状況です。

このように「分断社会」とも言われる時代だからこそ、人権の尊重と多様性の保障がますます重要になります。加えて、資源の公正な分配や対話を通じて互いに支え合う、平和で持続可能な社会の構築が求められて

います。そのためには、地球規模の課題の背景や構造、歴史を理解し、他者とともに学びながら、より公正な社会のあり方を考え、社会づくりに主体的に関わっていく姿勢が不可欠です。開発教育は、こうした取り組みを重視しています。

子どもたちだけでなく、私たち大人自身も主体的な学び手であり続けられるよう、教育そのものを見直していくことが求められています。

今年度は、昨年度に引き続き「中期方針・重点事業」の後半として、各種事業を実施しました。それと同時に、深刻な財政難のなか、団体のミッションとキャパシティを見定め、組織運営強化をはかりました。

中期計画の実施報告

2025年度は、「2022-26年度 中期重点方針・中期重点事業」4年目の年となりました。

<2022-2026 中期重点方針>

**方針1. 開発課題をわたしたちの課題として捉え考える
市民性・公共性の追求**

**方針2. 教育者中心から学習者中心の教育へ教育観の
転換に向かう**

<2022-2026 中期重点事業>

1. 開発課題（ジェンダー・貧困など）と開発教育に関する研究会の実施
2. 成人教育、社会教育としての開発教育の推進
3. 開発教育ファシリテーション（対話）の再考・議論の促進
4. 教育政策に関する調査・ネットワークづくり
5. 組織基盤強化

重点事業1では、「開発」の意味や望ましいあり方を問い、多様で複雑な「開発」課題を認識し、それらの理解を深めることや、課題達成に向けた行動を促していくために、「市民性」や「公共性」に関する議論を広く提案していくことを目指しました。

気候変動対策と開発に関する教材作成活動では、FoEJapanの協力のもと、実際にフィリピンの鉱山へ

のフィールドワークが実現し、教材リソースを得ることができました。それによって具体的なアクティビティ制作が進み、各所で試行することができました。d・lab では、その気候変動対策と開発の分科会に加え、「社会変容をめざした SDGs 学習」「国際協力を取り巻く環境の変化を踏まえた開発教育」をテーマとした分科会も実施されました。

重点事業2では、成人教育・社会教育の観点を持った開発教育活動の実践のあり方を広く共有することや、大人が学び続けられる環境づくりや教育保障と、人々が市民的な力を得ることで社会が変容していくような教育の議論・提案をし、地域における実践共有や、政策提案をするネットワークを構築することを目指しました。

昨年度に発行した『おとな・ユースのアクティブ・シティズンシップハンドブック』のワークショップが、山形市、新潟市、秋田市の DEAR のパートナー団体によって開催されました。地域や個人的課題を社会的課題として考えていく視野を得る重要性や、地域の問題を語り合う場のニーズについて確認されました。

重点事業3では、参加体験型の学習・教育方法の普及推進にとどまるのではなく、管理・伝達・誘導型の教育観を問い直し、学習観を持つことや、子ども若者と大人の主体的な学習のあり方と、それを支える教育や学校のあり方や役割を、広く議論し共有していくことを目指しました。

年度当初予定していた「開発教育ファシリテーション講座」は体制等の課題で開催しませんでした。d・lab 分科会やまなび DE フェスタなどで、開発教育のファシリテーションを用いた学習や対話を進めることができました。

重点事業4では、開発教育実践者や市民組織と協力して、国内の教育政策への提案を行うことや、全国の開発教育実践者が開発教育や ESD を実施しやすい環境をつくるために、政府や自治体行政との対話の場を広げることを目指しました。

とくに、「国内持続可能な開発目標 (SDGs) に関する自発的國家レビュー (VNR)」などに関して、SDGs

市民社会ネットワークとも協力し、積極的に政策提言活動を行いました。

ユネスコの成人学習・教育の第6次調査 (GRALE) が実施され、文科省総合教育政策局生涯学習推進課に対し日本政府回答の照会を行いました。DEAR でも調査内容の提言作成を行い、また、日本社会教育学会、日本公民館学会、基礎教育保障学会にも共有したうえで、コメントをとりまとめ、提言しました。

重点事業5では、財政構造の分析と見直しを行ったうえで、経費削減や新規財源獲得の検討を行いました。2か月に一度、年7回の理事会を開催し、理事を中心としたチームにおいて、事業運営や財政基盤の議論をすすめました。

12月には昨年度に引き続き、DEAR 応援企画として「With DEAR」を実施し、多くの方の応援をいただくことができました。キャンペーンを盛り上げるため、三つのイベント(「深読み」『開発教育の理論と実践』ブックレビュー(合評会)、「子育てカフェ『子どもの人権』」「アフリカ・マラウィの廃棄物問題を考える:あなたがもし国際協力活動の現場にいたら?」)をキャンペーンと紐づけ、イベント参加時の寄付を募りました。

しかしながら、財政基盤の立て直しにはまだ時間がかかることも確認され、引き続き、組織基盤強化のために協力者を拡大していくことの重要性が共有されました。

参加を重視した事業運営

年度当初に計画した6つの領域「Ⅰ. ネットワーク事業」「Ⅱ. 実践・研究事業」「Ⅲ. 情報・出版事業」「Ⅳ. 人材育成事業」「Ⅴ. 政策提言事業」「Ⅵ. その他の事業」においては、概ね事業計画通りに各種事業を実施することができました。

参加を重視するという点では、ウェブにも掲載している『みんなの参加』のための DEAR の取組にもあるように、あらゆる人々が安心して参加するための学びの場づくりをすすめています。

具体的には、視覚障害を持つ会員には、会報や機関誌のテキストを毎回データで送付しています。このような取組を広く関係団体へも伝えていきたいと思えます。

なお、各事業にかかわった委員会やタスクチームのメンバーについては、15～16頁をご覧ください。



d-lab2025 ボランティア・講師・スタッフ

2. 各種事業報告

I. ネットワーク事業

ネットワーク事業は、国内外の開発教育およびESD関係者と実践経験を共有し、開発教育の普及、深化をはかることを目的としている。今年度は、新しく発行した『おとな・ユースのアクティブ・シティズンシップ教育ハンドブック』を活用し、担い手との連携・強化を図った。

1) 国内ネットワーク事業

ALEプロジェクトで発刊したハンドブックを活用したワークショップを下記3地域で実施し、地域の課題を深掘りし、地域社会をどう「開発」するのかについて考えた。※いずれも報告はnote(旧スタッフブログ)に掲載。<https://note.com/ngodear>

① 山形県山形市

- ・ 日程:2025年4月20日(土)

<ワークショップ概要>

- ・ テーマ:「あなたのモヤモヤは社会につながっている? -誰もが安心して生きられる地域社会づくりを考えるワークショップ」
- ・ 会場:YAMAGATA Criative Center Q1
- ・ 参加者数:20名

②新潟県長岡市

- ・ 日程:2025年9月21日(日)
- ・ 協力:国際教育研究会 RING

<ワークショップ概要>

- ・ テーマ:「考えよう!社会課題とあなたの一歩ワークショップ」
- ・ 会場:米百俵プレイスミライエ長岡
- ・ 参加者数:40名

③秋田県秋田市

- ・ 日程:2025年2月23日(月・祝)
- ・ 協力:NPO 法人バニヤンソリー

<ワークショップ概要>

- ・ テーマ:「あなたのモヤモヤは社会につながっている?」
- ・ 会場:にぎわい交流館 AU
- ・ 参加者数:10名



2) 海外ネットワーク事業

①ASPBAEとの協働

アジア南太平洋基礎・成人教育協会(ASPBAE/アスベ)の団体会員として、成人教育や教育協力に関する情報共有を行った。

②ANGELプロジェクトへの協力

主に欧州で開発教育やグローバル教育を実践・研究する人々のネットワークであるANGEL(Academic Network on Global Education & Learning)主催のウェビナーに事務局長の中村絵乃が協力した。ANGELは英国の開発教育協会(DEA)の元事務局長、ロンドン大学教育院

(UCL/IOE) の開発教育研究センター (DERC)、センター長のダグラス・ボーン氏が立ち上げたネットワークで、定期的なセミナーを行っているため、会員への情報共有も行った。

② Bridge47との情報交流・協働

世界的に右傾化や反SDGsの動きが広まる中、SDG4.7を推進するグローバルネットワーク「Bridge47」との意見交換や連携を通じて、欧州の現状把握と今後の教育実践のヒントを模索した。

小規模なローカルの実践から民主主義への信頼を醸成することや、アクティブ・シティズンシップを支える教育の重要性が改めて示唆された。今後も引き続き個々の活動を社会変革に向けた集団的なメッセージへと転換するための、分野横断的な連携の必要性を確認する機会となった。(外務省主催「NGOスタディ・プログラム」の一環として訪問)



II. 実践・研究事業

開発教育の研究実践活動の質的な深化や向上に向けて、関連する教育的課題や今日的課題などに関する調査研究活動を行った。機関誌は「シティズンシップを培う教育を考える」をテーマに特集を組んだ。

1)「開発教育研究会」

①「SDGs と開発教育研究」部会

<d-lab 分科会の実施>

近年、教育現場における SDGs への関心の高まり

には大きな追い風を感じる一方で、その多くが表面的な理解や既存の枠組みの中での活動に留まっているのではないかと、という懸念も生じている。

そのような中で、d-lab(後掲)分科会において「『社会変容をめざした SDGs 学習:『持続可能な未来を実現するための学び』をどうつくる? どう深める?』と題して分科会を実施。教員やNPOスタッフを中心に 31 名が参加し、意見交換を通じて新たな視点や SDGsの本質について参加者と考える時間になった。

2)機関誌『開発教育』の編集発行

機関誌『開発教育』第 72 号を発行した。特集は「分断社会における開発教育の役割」とした。アジアの安全保障と平和をめぐる「物語」の読み解き、22 世紀を見据えた平和教育の視点、イスラエル・パレスチナの現場で見た「対立と共存」の実践、「戦後 80 年」教育現場の調査から見える課題など、理論と実践の両面から分断に向き合う多様な論考を収録した。



<概要>

- ・ 特集:「分断社会における開発教育の役割」
- ・ 発行:2025 年 12 月 10 日
- ・ 判型・頁数:B5判・92 頁
- ・ 発行部数:800 部
- ・ 価格:2,200 円(税込み)

また、自由に語り合う「機関誌オンラインカフェ」を開催し、特集執筆者を招きながら、各論文の感想や気づきを共有した。

<オンライン機関誌カフェ概要>

第 71 号:シティズンシップを培う教育を考える

- ・日時:2025 年 4 月 11 日(金) 19:30~21:00
- ・参加者:6名

第 72 号:分断社会における開発教育の果たす役割

- ・日時:2026 年 3 月 6 日(金) 19:30~21:00
- ・参加者:5名

3)d-lab2025(第 43 回開発教育全国研究集会)の

開催

43 回目となる今回は、より会員のための会員による d-lab として、これまで二日間開催していた日程を一日とし、自主ラウンドテーブルと実践研究・報告(全 18 プログラム)、分科会(5コマ)を中心に実施。全国各地から 130 名程(スタッフや関係者含む)の参加があった。

全プログラムを通じて、移民・難民、気候変動、ジェンダー、平和、人権、公害、SDGs などの多様なテーマが展開された。参加者からは、新たな知識や情報の習得、志を共にする仲間との出会い、授業でのアプローチや方法について学べた、などのコメントがあった。

参加層は、教員が最も多く 45%、NGO・NPO13%、学生 18%で、さまざまな背景や年齢の方たちとともに考え、意見交換し、議論する時間となった。

<概要>

- ・日程:2025 年 8 月 3 日(日)
- ・会場:JICA 地球ひろば(東京・新宿区)
- ・参加者数: 130 名(関係者を含む)
- ・主催:(特活)開発教育協会
- ・後援:文部科学省、環境省、外務省、消費者庁、東京都教育委員会、新宿区教育委員会、国連広報センター、JICA 地球ひろば、ESD 活動支援センター、SDGs 市民社会ネットワーク、関西 NGO 協議会、国際協力 NGO センター、自治体国際化協会、ユネスコ・アジア文化センター、名古屋 NGO センター、NGO 福岡ネットワーク、沖縄 NGO センター、IVY
- ・開催概要はこちらに掲載

<https://www.dear.or.jp/event/d-lab2025/16647/>



Ⅲ. 情報・出版事業

新規教材等の作成・増刷、ウェブサイトや SNS を活用した情報発信を行った。

1) 新規教材図書の企画編集と制作発行

開発教育に関連する次のような新規の教材や図書の、企画編集・制作発行や増刷をおこなった。また、引き続きその財源の確保に努めた。

① 『気候変動対策と開発』教材

気候変動対策としての電気エネルギーへのシフト化や自然エネルギー活用の名のもとに、自然環境破壊と人権侵害が生じている現状から、改めて持続可能な社会や気候変動対策を考える教材を作成している。

今年度は、FoEJapan の協力と近藤牧子(理事・職員)による科学研究費(課題番号 2K22772)の助成から、作成メンバーによるフィリピンのリオツバ鉱山周辺地域における現地調査を実施した。

また d-lab 分科会を実施し、作成中の教材アクティビティを実施したり、FoEJapan スタッフを招聘した。

② Global Express 教材の発行

時事問題を開発教育の視点から扱い、教室や地域などで、タイムリーに学ぶためのメディア・リテラシー教材(無料ダウンロード)を、2 件、発行した。

・『第 24 号 参院選』

発行日:2025 年 7 月 10 日公開

内容:

アクティビティ1:部屋の四隅「選挙、どうする？」

アクティビティ2:平和と共生を実現できそうな政党はどこだ!?

ダウンロード件数:162 件(2026 年 3 月末)

・『第 25 号 イランへの攻撃』

発行日:2026 年 3 月 25 日公開

内容:

アクティビティ1:「気持ち」や「関心」を共有する

アクティビティ2: わたしの意見

アクティビティ3:戦争にならないために必要なこと

ダウンロード件数:69 件(2026 年 3 月末)



< 概要 >

- ・企画協力:ピープルツリー
- ・イラスト:増山理人
- ・サイズ:タテ 40×ヨコ 46×シュルダール58cm
- ・一般価格: ¥4,180(税込)
- ・会員価格: ¥3,300(税込)
- ・数量:100 部

③ その他図書教材の編集企画・編集協力

既存の教材で在庫が少ない以下の教材の改訂・増刷発行を行った。

< 改定増刷 >

『改訂版 豊かさと開発～サステナビリティやダイバーシティから考える』

発行:開発教育協会

発行日:2026年3月28日

発行部数:500部



2) 出版物販売

当会発行の教材・図書資料をインターネット等を通じて販売した他、関係団体の発行図書の受託販売、教材カタログやAmazonなどの販路で販売を行い自己財源の強化を図った。

< 書籍売り上げ年間ベスト5 >

1. 『ワークショップ版世界がもし100人の村だったら』
第7版 517冊
2. 『新・新 貿易ゲーム』 227冊
3. 『スマホから考える世界・わたし・SDGs[改訂版]』
80冊
4. 『ソーシャル・アクション ハンドブック』 79冊
5. 『開発教育実践ハンドブック』 73冊

①「Take Action トートバック」の販売

機関誌「開発教育」の表紙イラストを活用し、フェアトレード専門ブランドであるピープルツリーの協力を得て、フェアトレード&オーガニックコットンのトートバックを作成した。3月28日に開催した「まなび DE フェスタ」で販売を開始した。

3) 広報資料作成

①ウェブサイトの運営 <https://www.dear.or.jp/>

主催イベントや教材の案内などを中心に運用している。

※解析ツール(google analytics)のタグを未設置のため、今年度のアクセス解析データはとれなかった。

②メールマガジンの発行



<https://www.mag2.com/m/0000270703>

毎月1回のメールマガジンの発行を開始し、主催事業や資料の情報を発信した。

・3月末現在3,980件(前年度比+11件)が登録している。

③Facebook ページの運営



<https://www.facebook.com/ngoDEAR/>

主催イベントや教材の紹介のほか、開発教育や国際協力に関連するニュースも配信している。

- ・フォロワー数:4,248(前年度比+73)
- ・属性:女性58%(25-44歳)、男性42%(44-54歳)
- ・ビュー数(表示回数):14万回/年度
- ・ビューア数トップ3:①GE参院選発行、②GEイラン

への攻撃発行、③RINGセミナー実施報告

④Instagramの運営

<https://www.instagram.com/ngo.dear/>



工数削減のため、FacebookとInstagramを連動させて運用中。

- ・投稿記事:153本(前年度比-141)
- ・フォロワー:277人(前年度比+68)
- ・ビュー数(表示回数):2.7万回/年度

⑤ X (旧Twitter)の運営

<https://twitter.com/ngoDEAR>



イベント情報や教材関連情報を中心にツイートしている。

- ・3月末のフォロワー数:1,532(前年度比-21)。

⑥noteの運営

<https://note.mu/ngodear>



ニュースレターや機関誌の記事を不定期に公開している。また、逝去された方の原稿や講演録も掲載している。

- ・ページビューは4,621件(昨年度比-73件)
- ・「スキ」:68件(前年度比-15件)、
- ・公開記事:12本(前年度比-16件)。

⑥ PR TIMESの利用

プレスリリース一括配信サービス(無償)。教材発行や主催イベント情報等を掲載している。

- ・ページビュー:6,012回(前年度比+1,703回)
- ・メディア転載数:156件(前年度比+18件)

IV. 人材育成事業

開発教育の実践者を支援し増やすために、講師派遣事業や各種講座を行った。特に、ジェンダーやSDGsについて、ファシリテーション講座など、多様なニーズに対応した。

1)講師派遣事業

政府機関・自治体・教育委員会・学校・大学・自治

体国際化協会・NGOなどからの講師派遣依頼に対して、DEARの役職員等を講師として計37件80回派遣した。述べ参加者は約2,500名。

依頼先は大学やNGO、JICAなどが多く、内容は各種ワークショップの他、ALEや気候変動、多文化共生をテーマにしたものなどが多かった。詳細は「資料編(19頁)」を参照。

2)各種講座

①「開発教育入門講座」

開発教育の基礎的理解を目的とした入門講座をオンラインで開催した。今年度より理事講師2名ずつ体制で実施し、開発教育講座を充実させ、参加者によるQ&Aの時間を十分に設けた。計6回、約40名の参加者を得て開催した。

<各参加者数>

- 第1回 4月22日(火)8名
- 第2回 5月22日(木)2名
- 第3回 7月22日(火)7名
- 第4回 9月19日(金)8名
- 第5回 11月21日(金)4名
- 第6回 1月22日(木)11名

②「開発教育ワークショップ」

d-labの教材体験WSの時間がなくなったことを受け、WS体験をする講座を、理事を講師に計3回、東京、大阪、オンラインにて実施した。

<実施概要>

『ワークショップ版世界がもし100人の村だったら』

講師:上條直美(理事)

日時:2025年6月21日(土)10:00-12:30

場所:富坂キリスト教センター1号館

参加者:21名(一般5名、会員・学生11名、ボランティア・社会教育実習生5名)

『「スマホから考える世界・わたし・SDGs」から考える世界・わたし・SDGs』

講師:佐藤友紀(理事)

日時:2025年10月11日(土)14:00-16:30

場所:大阪国際交流センター

参加者:10名(一般2名、会員・学生4名、ボランティア4名)

『アクティビティ集3 気候変動』

講師:松倉紗野香・近藤牧子(理事)

日時:2026年2月14日(土)10:00-12:30

場所:オンライン

参加者:6名(一般2名、会員2名、ボランティア2名)

3)まなびDEフェスタ

これまで「教材フェスタ」として3月に実施していたものを刷新し、「まなびDEフェスタ～世界を知ってたのしい!学びと出会いがめぐる1日～」と題して、開催した。従来の教材体験の枠を超えた「学びのフェス」という新たなコンセプトのもと、学生から多様な分野の専門家まで、関係者を含め約80名の参加を得た。

プログラムでは、ロングセラー教材である『ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら』をはじめ、「気候変動」や「多文化共生」といった現代的なテーマを扱う計6種類のワークショップを実施し、参加者が直接教材を体験する機会を提供した。また、初の試みとして「自由参加プログラム」の時間を設け、「物販・相談ブース」や「ミニセッション」を展開。フェアトレード商品の紹介や、国際協力・教育実践の専門家との直接的な交流、情報交換が活発に行われるなど、新たなネットワーク構築と実践の契機となる賑わいを見せた。

<概要>

- ・日程:2026年3月28日(土)10時~17時30分
- ・会場:JICA地球ひろば(新宿区)
- ・参加者:80名(関係者を含む)
- ・講師:14名

<プログラムと講師(敬称略)>

A1 教育をジェンダー平等に/近藤牧子(DEAR 理事・事務局長補佐)、岩岡由季子(会社員・DEAR 元職員・教材作成チーム)、谷田なつ美(小学校教員・教材実践者)

A2 世界がもし100人の村だったら/上條直美(フェリス学院大学ボランティアセンター・DEAR 理事)、

小口瑛子(会社員・DEAR 評議員)

A3 「服 ファッション」とフェアトレード/鈴木啓美(ピープルツリー・教材作成チーム)、佐藤友紀(大学講師・DEAR 代表理事)

B1 グローバルな貿易を考える/佐藤友紀(大学講師・DEAR 代表理事)、松倉紗野香(中学校教員・DEAR 副代表理事)、西平久美子(DEAR 理事)

B2 難民問題から多文化共生社会を考える/岩岡由季子(会社員・DEAR 元職員)、中村絵乃(DEAR 事務局長)

B3 気候変動とプラスチックごみ/高階悠輔(認定NPO 法人シャプラニール=市民による海外協力の会・DEAR 理事)、溝口実央(会社員・DEAR 会員)



4)おうちDE開発教育

自由に語り合う「子育てカフェ」と d-lab 分科会を実施した。「子育てカフェ」の第1回では、「子どもの人権」をテーマとし、アクティビティを交えた語り合いの場となった。第2回は衆議院選挙の結果を受けて、「選挙と子育て」を語る場としてのカフェを開催した。延べ参加者数は14名。

①第1回子育てカフェ「子どもの人権」

2025年12月13日(土)21:00-22:30 参加者10名

②第2回子育てカフェ「選挙と子育て」

2026年3月7日(土)21:00-22:30 参加者2名

③d-lab2025 分科会

参加者2名

V.政策提言事業

中期重点事業4にもあるように、SDG4.7 だけでなく、SDG4 を中心に、開発教育や ESD 実施のための提案をほかの市民団体やネットワークと連携・協力しながら進めた。

1)行政に対する政策提言

①国際協力政策・援助政策に対する政策提言

SDGs 市民社会ネットワークの教育ユニットの世話人になることで、国内の教育問題に関する SDGs 政策への提言を行うことができた。

具体的には政府の「SDGs に関する自発的国家レビュー(VNR)報告書」に関して、パブコメを出すとともに、会員にも広くパブコメ提出を呼びかけた。また市民社会の視点から SDGs の進捗と課題についてとりまとめた『SDGs スポットライトレポート』の作成に貢献した。

② 教育行政・教育政策に関する政策提言

ESD 活動支援センターの「ESD 活動支援センターの企画運営委員」として参加し、情報共有を行った。

③成人教育・社会教育政策に関する政策提言

ユネスコの成人学習・教育の第6次調査(GRALE)が実施され、文科省総合教育政策局生涯学習推進課に対し日本政府回答の照会を行った。DEAR でも調査内容の提言作成を行い、関連団体にも共有したうえで、コメントをとりまとめ、提言した。

2)キャンペーンへの協力

①教育協力 NGO ネットワーク(JNNE)主催「SDG4 教育キャンペーン 2025」への協力

基礎教育を受けられない子どもたちや非識字の人々が世界中に多くいる現状に目を向け教育の大切さを世界中で同じ時期に考える、グローバルなキャンペーン。2016 年度より SDG4(教育目標)達成を目標に掲げている。今年度は広報などに協力した。

<概要>

・各政党に対し国内と国際的教育政策に関するアンケートを実施し、政党名を伏せた状態で Web サイトに公開。全国の市民、学校、市民グループから、どの政党・どの回答に賛同するか、意見を投票してもらった。
・政党アンケート結果を受けてのオンライン投票には、全国から 5,100 名の市民が参加し、日本の教育と教育援助に関する多くの提言が寄せられた。

VI.その他の事業

1)受託事業

① CINGA(国際活動市民中心)

多文化共生に関するコンサルティングやコーディネートを行っている CINGA より依頼を受け、移民に対する反差別活動として行われている、スペインにおける『反うわさ戦略』プロジェクトの日本版作成の相談を受けた。簡易なアクティビティ製作と1回のワークショップの試行実施依頼を受けた。ワークショップは、三鷹市のすぺーすはちのこにて、近隣で市民活動にかかわる7名により行われた。

<業務内容>

- ・反差別に向けた多文化共生プロジェクトのコンサルティング
- ・反差別に向けたアクティビティ作成
- ・作成したアクティビティの試行実施

②聖心グローバルプラザ内「BE*hive」

聖心女子大学グローバルプラザ内に設置された展示・ワークショップスペース「BE*hive(ビー・ハイブ)」の展示を活用したワークショップの企画・運営等を行った。過去に作成した「日本の難民」、「気候変動」「ジェンダー」、「こどもと戦争」、「こどもと放射線」などの教材を活用してワークショップを行った。

<概要>

聖心グローバルプラザ「BE*hive」

主管:聖心グローバル共生研究所

<業務内容>

ワークショップの実施

- ・ワークショップ実施回数:13 回(うち聖心女子大学学生向け 8 回)
- ・参加合計数:約 250 名(うち聖心女子大学基礎課程演習参加者約 160 名)

③ 國學院大学 SDGs講座企画運営

國學院大学の共通教育プログラムとしてSDGsに関する授業「共存・共生の思想2」を、参加型で進めるための授業案の提供と実施、ファシリテーターの研修などを行った。

(履修者:約80名、ファシリテーター:10名)

2)外部団体との共催・協力事業

①2025年度開発教育・国際教育セミナー

< 主管:DEAR大阪 >

(公財)大阪国際交流センター、(独)国際協力機構関西国際センターが共催する、開発教育に関する基礎的理解を目的としたセミナーの企画・開催に協力した。

< 開催実績 >

日程:2026年2月28日(土)

プログラム:開発教育・国際教育セミナー「おいしいだけじゃない!チョコとSDGsの深い関係」

会場:大阪国際交流センター

共催:(公財)大阪国際交流センター、(独)国際協力機構関西国際センター

協力:DEAR大阪

講師(敬称略):佐藤友紀

参加者数:31名

②ESD活動支援センター運営委員

ESD 推進ネットワークの全国的なハブとなり、ESD活動の支援を行うため、環境省により開設された「ESD 活動支援センター」の運営委員として、佐藤友紀代表理事が会議等に参加した。

3. 組織運営に関する報告

1)会報「DEAR ニュース」の編集発行

昨年度から検討していたデジタル版への移行を実施した。デザインを改訂し、ページ数を増やしたり、リンクをつけたりして、読みやすくした。開発教育の関連情報をはじめ、DEARや各地の「担い手」などの活

動状況を紹介することを目的とした会報を3回(6・9・3月)、オンラインで発行した。

号	特集(寄稿者は敬称略)
第221号 (6月発行)	「権利としての生活保護」を確立するために～「いのちのとりで裁判」と桐生市事件:稲葉 剛(つくりいファンド)
第222号 (9月発行)	紛争の歴史から何を学び、平和をどう築くか:山崎 雅弘(戦死・紛争史研究家)
第223号 (3月発行)	排外主義への課題と教育の持つ可能性:教員養成課程に多文化共生教育論を!:風巻 浩(元東京都立大学特任教授)

また、交流を目的とした「DEAR News を読む会」を3回開催し、会報への感想や気づきを共有した。

< 開催実績 >

①第 221 号を読む会

日時:2025 年7月4日(金) 19:30～21:00

参加者:4名

②第 222 号を読む会

日時:2025 年10月10日(金) 19:30～21:00

参加者:6名

③第 223 号を読む会

日時:2026 年4月9日(木) 19:30～21:00

参加者:4名

2)サポーターの募集

DEAR を資金面で継続的に支援していただける人を増やし、組織強化につなげるために、2014 年 12 月よりサポーター制度(年 4,000 円以上の定額寄付制度)を開始し、募集をすすめている。今年度は、過去会員や研修会参加者、書籍購入者にメール DM を送ったり、会員継続の際の紹介など、サポーターへの依頼を行った。

3)「DEAR応援月間」With DEAR2025



DEAR 応援企画「With DEAR あなたと『ともに』 DEAR と『ともに』」を計画・実施した。開発教育を継続・発展させ、現場で実践を行う方々を支え続けていくための活動資金として、100万円を目標額として寄付での応援を募った。

12月1日～1月31日の実施期間、DEARの応援者の方々からのコメント掲載、サイトやSNSでの告知、関係者の方々からの情報拡散を呼びかけた結果、寄付件数109件、総額985,500円という、ご寄付に繋がった。

また、DEAR 応援月間期間に以下の講座を開催し、参加者に寄付を呼び掛けた。

①深読み！『開発教育の理論と実践』ブックレビュー（合評会）

日時:2025年12月12日(金)19:00～21:30

会場:オンライン

内容: Douglas Bourn 著『開発教育の理論と実践—グローバル社会正義のための教育学』(湯本浩之・奈良崎文乃訳、せせらぎ出版)を題材に各章の論点を紹介した。

参加者:40名

報告(動画): <https://www.dear.or.jp/event/17046/>

②子育てカフェ:子どもの人権

日時:2025年12月13日(土)21:00～22:30

会場:オンライン

内容:自己紹介、子どもの権利条約の資料を参考にしたアクティビティ、ふりかえり

参加者:16名

報告:

https://note.com/ngodear/n/ne5f60d71b6bf?sub_r

t=share_pw

③アフリカ・マラウイの廃棄物問題を考える～ あなたがもし、国際協力活動の現場にいたら？

日時:2026年1月30日(金)19:30～21:30

会場:オンライン

内容:加藤英嗣さん(DEAR評議員、JICA海外協力隊、元小学校教員)を迎え、「もし自分が国際協力活動の現場にいたら？」という視点で、参加者と考える

参加者:30名



4)「DEAR membes」の発信

会員とのコミュニケーションの一環として、会員に直接届けたい情報を編集し、会員限定のメール「DEAR members」を発行した。

4月号(4月22日発行)

5月号(5月22日発行)

12月号 12月23日発行

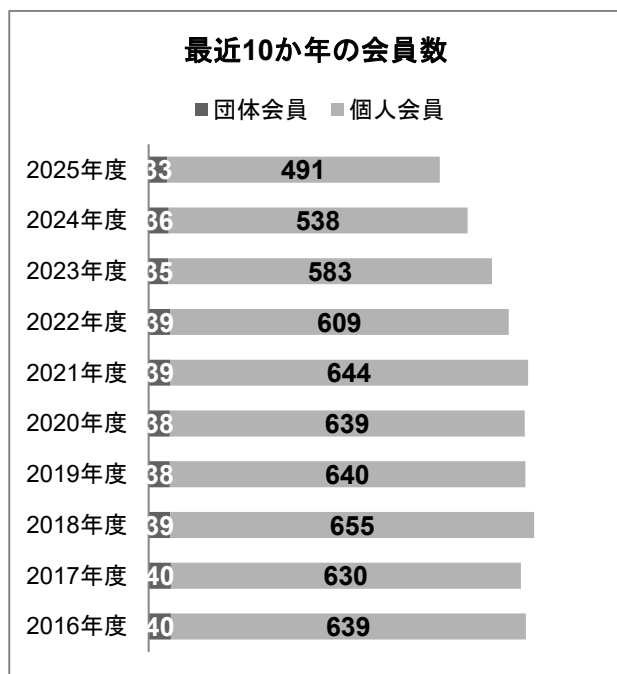
以上

処務の概要

1) 会員に関する事項

2026年3月末現在の会員数は、次の通り。ただし、括弧内は昨年末比の数字。

- 正会員 団体 17団体(±0団体)
個人 305名(-20名)
- 賛助会員 団体 16団体(-3団体)
個人 186名(-27名)
(内学生会員:4名/-3名)
- <参考> 団体会員 33団体(-3団体)
個人会員 491名(-47名)



2) 役員等に関する事項(2026年3月末現在)

註:役員等は個人の立場で当会の運営に参加しており、括弧内は本人の勤務先や所属先等を参考までに紹介するものです。

●代表理事

佐藤友紀(大学講師)

●副代表理事

石川一喜(拓殖大学)

松倉紗野香(中学校教員)

●常任理事

阿部真理子(認定NPO法人IVY)

奈良崎文乃(公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン)

高階 悠輔(認定 NPO 法人シャプラニール=市民による海外協力の会)

南雲 勇多(奈良教育大学)

西川 千佳子(マーケティングパートナー)

●理事

秋山 映美(特定非営利活動法人監獄人権センター)

上條 直美(フェリス女学院大学ボランティアセンター)

近藤 牧子(認定 NPO 法人開発教育協会)

西平 久美子(認定NPO法人ハンガー・フリー・ワールド)

前嶋 葵(NPO法人コモンビート)

三宅 隆史(公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 / 教育協力 NGO ネットワーク)

山本 康夫(団体職員)

中村 絵乃(認定 NPO 法人開発教育協会)

伊藤 容子(認定 NPO 法人開発教育協会)

●監事

田中治彦(上智大学)

山崎唯司(団体役員)

●顧問

岩崎裕保(NPO法人関西NGO協議会)

●評議員

青沼 由衣(公務員)

岡 秀樹(志のぶ幼稚園)

小口 瑛子(会社員)

加藤 英嗣(小学校教員)

栗田 佳典(特定非営利活動法人関西 NGO 協議会)

栗本 知子(特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター(PARC))

逆瀬川愛貴子(会社員)

鈴木 洋一(特定非営利活動法人 Wake Up Japan)

関本 幸(レインフォレスト・アクションネットワーク(RAN))

田口 裕晃(特定非営利活動法人名古屋NGOセン

ター)
土屋 一步 (特定非営利活動法人日本 NPO センター)
永田 賢介 (認定 NPO 法人アカツキ)
西山 典仁 (マーケティングパートナー)
古沢 広祐 (「環境・持続社会」研究センター (JACSES))
星 久美子 (公益財団法人かながわ国際交流財団)

3) 会員総会に関する事項

2025年度定期会員総会

日時: 2025年5月31日(土)

会場: オンライン

<第1部> 13:00~14:30

会員交流会 with DEAR みんなで語ろう

「日本でのSDGs流布は変革につながるのか: 開発教育にできること」

話題提供: 三宅隆史 (SDGs市民社会ネットワーク教育ユニット幹事、DEAR理事)

進行: 中村絵乃 (DEAR事務局長)

<第2部> 14:45~16:30

2025年度定期会員総会

<審議事項>

1) 第1号議案 2025年度事業報告および決算報告について

<報告事項>

1) 永年会員表彰

2) 2025年度事業計画および予算について

3) 意見交流会

4) 理事会に関する事項

●第1回理事会

日時: 2025年5月31日(土) 16:45~17:45

会場: オンライン

議案:

1. 代表・副代表・常任理事等の選任について
2. 各種委員会の設置および委員選任・委嘱
3. 開発教育研究者育成奨学金規定について
4. 第2回理事会について

●第2回理事会

日時: 2025年6月8日(土) 13:00~17:00

会場: DEAR事務所、オンライン

議案:

1. 各種委員会の設置および委員選任・委嘱
2. 今後の組織・事業について
3. 今後の理事会について

●第3回理事会

日時: 2025年9月2日(火) 19:30~21:30

会場: オンライン

議案:

1. 上半期決算報告
2. d-lab について
3. 営利事業の議論共有
4. 継続発展事業の議論共有
5. 後期の事業、予定について
6. 今後の進め方、役割分担
7. その他

●第4回理事会

日時: 2025年10月19日(土) 13:00~16:00

会場: DEAR事務所、オンライン

議案:

1. 上半期事業報告、決算報告、下半期事業計画
2. 今後の組織・事業について
3. 今後の理事会

●第5回理事会

日時: 2025年11月25日(火) 19:30~21:00

会場: オンライン

議案:

1. 報告 10月決算
2. 今後の組織・事業について
3. 次年度評議員候補者選考委員会
4. 委託事業の件
5. 地域セミナー実施について

●第6回理事会

日時: 2026年3月7日(土) 13:00~16:00

会場: オンライン

議案:

1. 決算見込み、事業報告、人事について
2. 2026年度予算、計画
3. 次年度理事・評議員候補者について
4. 定款の変更について
5. 役員報酬規程について
6. 教材の著作権に関して
7. 今後の理事チームの運営について

●第7回理事会

日時:2026年4月25日(土)13:00~16:00

会場:オンライン

議案:

1. 2025年度事業報告・決算報告
2. 2026年度事業計画・予算
3. 定款変更
4. 役員報酬規程について
5. 会員総会について
6. 組織に関する協議について

5)評議員会に関する事項

●第1回評議員・理事合同会議

日時:2025年12月13日(土)13:00~16:00

会場:オンライン

議題:

<第1部 評議員会>

- ① 評議員会の説明
- ② 自己紹介・近況報告
- ③ DEAR報告・財政報告
- ④ 次期理事候補者選考委員会の設置・委嘱

<第2部 グループディスカッション>

DEARの現状とこれから

6)2025年度事業評価・2026年度計画会議

2025年度の事業評価と、2026年度の事業計画を共有し、議論した。

日時:2026年2月11日(水・祝)13:00~16:00

会場:オンライン

議題:

- ・2025年度事業評価
- ・2026年度事業計画

7)各種委員会に関する事項(2026年3月末現在)

本年度は、次のような各種委員会が理事会内に設置され、当会の運営や事業について協議を行った。

(註:各種委員は個人の立場で当会の運営に参加しており、括弧内は本人の勤務先や所属先等を参考までに紹介するものです)

① DEAR大阪運営委員

委員長:佐藤友紀(大学講師)

委員:岩崎裕保(関西NGO協議会)、大森容子(滋賀県国際協会)、談儀善弘(元高校教員)、南雲勇多(奈良教育大学)、榛木恵子(聖和共働福祉会)、丸山まり子(地球市民フォーラムなら)、中道愛子(神戸YMCA)、三輪敦子(アジア・太平洋人権情報センター)

② 機関誌「開発教育」編集委員会・査読委員会

青沼由衣(公務員)、小野行雄(かながわ開発教育センター)、上條直美(フェリス女学院大学)、木村万里子(日本国際ボランティアセンター)、近藤牧子(DEAR)、佐渡友哲(日本大学)、重田康博(宇都宮大学)、田中治彦(上智大学)、奈良崎文乃(プラン・インターナショナル・ジャパン)、山中信幸(高校・大学非常勤講師)、湯本浩之(DEAR会員)、中村絵乃・松川清美(DEAR)

8)プロジェクト・チームに関する事項

本年度は、以下のような研究会やプロジェクト・チームが設置され、各事業や活動の企画運営にあたった。

(註:役員は個人の立場で当会の運営に参加しており、括弧内は本人の勤務先や所属先等を参考までに紹介するものです)

<研究会・プロジェクト・チーム>

① SDGs研究会

上條直美(フェリス女学院大学)、近藤牧子(DEAR)、田中治彦(上智大学)、松倉紗野香(中学校教員)、本山明(元中学校教員・大学非常勤講師)、湯本浩之(DEAR会員)、伊藤容子・中村絵乃(DEAR)

②「開発教育入門講座」チーム

岩岡由季子(会社員)、上條直美(フェリス女学院大学ボランティアセンター)、佐藤友紀(大学講師)、阿部真理子(IVY)、松倉紗野香(埼玉県教員)、尾畑裕巳(個人)、定光香(会社員)、田中浩平(団体職員)、原麻衣(個人)、中村健、近藤牧子(DEAR)

③会報「DEARニュース」編集委員会

阿部秀樹(リーダー／団体職員)、陣野俊彦(高校教員)、高橋瑞季(会社員)、滝本雅章(事務局ボランティア)、田中祥一(高校教員)、須磨珠樹(個人)、中園真由美(個人)、林美帆(団体職員)、八木亜紀子(個人)、松川清美(DEAR)

④おうち DE 開発教育チーム

小口瑛子(会社員)、近藤牧子(DEAR)、清水千絵(ファシリテーター)、前嶋葵(団体職員)、谷田なつ美(小学校教員)、溝口実央(会社員)

⑤講座検討チーム

阿部眞理子(IVY)、石川一喜(拓殖大学)、上條直美(フェリス女学院大学)、近藤牧子(DEAR)、佐藤友紀(大学講師)、松倉紗野香(中学校教員)、山本康夫(団体職員)、伊藤容子、中村健(DEAR)

⑥助成金検討チーム

秋山映美(特定非営利活動法人監獄人権センター)、阿部眞理子(IVY)、高階悠輔(団体職員)、西川千佳子(会社員)、伊藤容子(DEAR)

⑦若年層検討チーム

高階悠輔(団体職員)、西平久美子(団体職員)、前嶋葵(団体職員)、逆瀬川愛貴子(会社員)、谷田なつ美(小学校教員)、伊藤容子、松川清美、中村健(DEAR)

10)職員に関する事項

事務局長	中村 絵乃(常勤)
事務局次長	伊藤 容子(常勤)
事務局長補佐	近藤 牧子(週3日)
事業担当	松川 清美(週4日)
経理・総務主任	牧 啓太(常勤)
書籍担当	若松 陽子(週2日)
事業担当	佐藤 晴香(2月～ 週2日)
アルバイト	岡田 歩奈美(週1日)
アルバイト	西平 久美子(3月～ 週2日)

11)インターン・ボランティアに関する事項

今年度参加したインターン・ボランティアは次の通り。

<事務局インターン>

岡田歩奈美(学生、2023年11月～継続)

水落優青(学生、2025年2月～2026年3月)

<事務局ボランティア>

滝本雅章(社会人、2007年11月～継続)

豊島おりは(学生、2022年4月～継続)

工藤冴子(学生、2023年5月～継続)

安井亮太(社会人、2023年5月～継続)

佐藤圭一(社会人、2023年8月～継続)

佐井木 敬裕(社会人、2023年12月～継続)

鈴木嶺大(学生、2024年8月～継続)

伊藤紗香(学生、2025年9月～継続)

柏山京(学生、2025年12月～継続)

晝間 有生子ルシア(学生、2025年4月～継続)

<実習生>

門野えみ花(学生、2025年8月)

石川凜(学生、2025年8月)

12)会員団体に関する事項

DEARが正会員として参加した団体は次の通り。

- ・ アジア南太平洋基礎・成人教育協会(ASPBAE)
- ・ 認定NPO法人国際協力NGOセンター(JANIC)
- ・ 教育協力NGOネットワーク(JNNE)
- ・ 一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク

13)助成金・寄付金に関する事項

今年度ご支援を受けた助成金および寄付金は次の通り。

①助成金

国際協力システム(JICS) (200,000円)

外務省NGOスタディ・プログラム (576,649円)

②一般寄付金

個人・団体187件 (1,168,293円)

うち「クラウド・ファンディング」 109件(985,500円)

③特別寄付金

個人会員〔匿名〕(10,000,000円)

⑤DEARサポーター

個人51名 (274,000円)

資料1: メディア掲載・取材協力など

①5月5日(月)～11日(日)

あらかわケーブルテレビ「Weekly News」

第1638回 5月5日(月曜)から5月11日(日曜)放送に、DEARが行った講師派遣の様子が掲載された。

「あらかわエコジュニアクラブ～気候変動のワークショップ～(あらかわエコセンター:4月19日)」

②11月28日(金)朝日新聞社・教員向けサイト「先生コネクト」

11月15日(土)に東京・築地の朝日新聞社東京本社で開かれた、「教室で世界を語ろう! ニュースでひらく探究の扉」の様子が紹介された。このセミナーは、DEARと朝日新聞社の共催で開催された。

(記事抜粋) DEARの松倉紗野香さんと中村絵乃さんが講師を務め、現代社会の重要なテーマであるAI(人工知能)に関する記事を使ってさまざまな「問い」をたて、「問い」の分析を通して見方を広げてい

く方法を体験しました。

③1月14日(水)國學院大學 國學院メディア

國學院大學 共通教育科目「共存・共生の思想(持続可能な社会への取り組み)」で大学への施策提言が行われました。(令和8(2026)年1月14日)

この授業は、DEARが國學院大学より委託を受けて実施しました。

(記事抜粋) 令和8(2026)年1月14日、渋谷キャンパスで2限に開講されている共通教育プログラムのシチズンシップ科目の一つ「共存・共生の思想(持続可能な社会への取り組み)」において、大学への施策提言が行われました。同科目は、認定NPO法人・開発教育協会のコーディネートによるアクティブラーニング型の授業で、約100人の学生が受講しています。

資料2: 「名義後援・協力」の実績一覧(計8件)

<後援名義>

① 独立行政法人国際協力機構
「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2025」

② 公益財団法人日本クリスチャンアカデミー関西セミナーハウス活動センター
「2025年度開発教育セミナー」

③ 公益財団法人滋賀県国際協会
「国際教育教材体験フェア in 滋賀 2025」

④ 公益財団法人滋賀県国際協会
「2025年度 国際教育ワークショップ 地球市民を地域とともに育てよう part24『多文化共生のためのシチズンシップ教育』」

⑤ 特定非営利活動法人関西NGO協議会
「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2025」

⑥ 独立行政法人国際協力機構関西センター
「国際教育入門セミナー2026 in奈良「世界とつながる私たちの暮らし」」

<協力名義>

① 独立行政法人国際協力機構関西センター
「2025年度開発教育・国際教育セミナー「おいしいだけじゃない! チョコとSDGsの深い関係」」

② 教育協力NGOネットワーク
「SDG4教育キャンペーン2026」

資料 3:他団体への「賛同・協賛」の実績一覧（計4件）

<賛同>

①学校保護宣言キャンペーン主催

「日本政府に『学校保護宣言』に賛同を求める署名」に賛同(2025年4月30日)

②NPO 法人日本国際ボランティアセンター(JVC)

ほか

「ガザの恒久的停戦とパレスチナの平和を求める」声明に賛同(2025年5月15日)

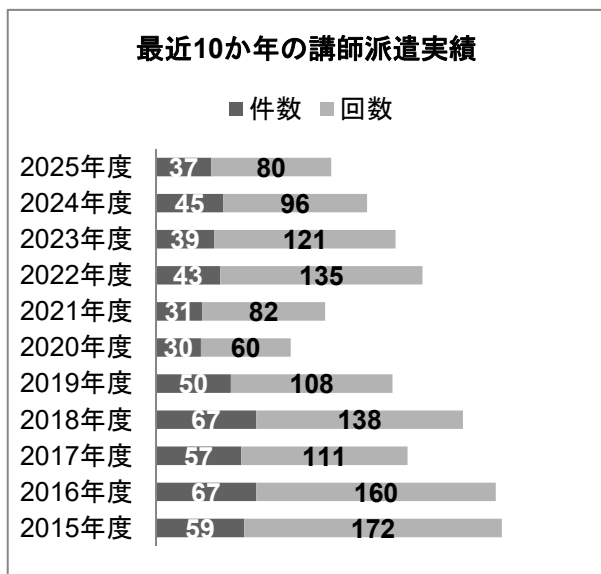
③特定非営利活動法人移住者と連帯する全国ネットワーク(移住連)ほか

「参議院選挙にあたり排外主義の煽動に反対するNGO 緊急共同声明」に賛同(2025年7月14日)

④アイヌ力(ちから)

「アイヌ民族ヘイト」は人権侵害です！札幌市に防止策を求める署名運動(2026年3月25日)

資料 4:「講師派遣」の実績一覧（計 37 件 80 回）



1 「APLA 事業振り返り会」(2025-04-10/計 1 回)

主催:(特活)APLA

内容:事業振り返り

対象:NGO・団体職員

派遣者:中村絵乃

実施形態:対面

2 「あらかわエコジュニアクラブ(8 期生)」(2025-04-19/計 1 回)

主催:荒川区役所

内容:「ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら」

対象:小学生

派遣者:中村絵乃

実施形態:対面

3 「東洋大生がワークショップで考える SDGs」(2025-04-19/計 1 回)

主催:東洋大学

内容:「パーム油のはなし」

対象:大学生

派遣者:松川清美

実施形態:オンライン

4 「杉村ゼミ」(2025-04-23/計 1 回)

主催:上智大学 短期大学部

内容:「スマホから考える世界・わたし・SDGs」

対象:大学生

派遣者:伊藤容子

実施形態:対面

5 「探究型ゼミ学習プログラム」(2025/4/30,6/11,9/10,10/15/計 4 回)

主催:英明フロンティア中学校・高等学校

内容:「レヌカの学び」、「ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら」

対象:高校生

派遣者:近藤牧子、伊藤容子、鈴木啓美

実施形態:対面

6 「JICA 沖縄教員向け開発教育支援プログラム 教員ネットワーク強化セミナー」(2025-05-24/計 1 回)

主催:JICA 沖縄

内容:「ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら」
対象:教員・教育関係者
派遣者:佐藤友紀
実施形態:対面

7 「消防職員のための外国人とのコミュニケーション」(2025-05-28/計 1 回)

主催:(財)全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所
内容:「バーンガ」
対象:自治体・公務員
派遣者:伊藤容子
実施形態:対面

8 「ケアの倫理 ファシリテーション養成講座」
(2025/6/7,7/5,8/16/計 3 回)

主催:山梨民主医療機関連合会
内容:ケアの倫理に関する教材
対象:職員 医療従事者
派遣者:中村絵乃、松川清美
実施形態:対面

9 「鎌倉女学院高等学校」(2025-06-14/計 6 回)

主催:鎌倉女学院中学校・高等学校
内容:「パーム油のはなし」;「コーヒーカップの向こう側」;「スマホから考える世界・わたし・SDGs」
対象:高校生
派遣者:伊藤容子、岩岡由季子、小口瑛子
実施形態:対面

10 「2 年次生向け科目「初等教育基礎研究」ワークショップ」
(2025-06-25/計 1 回)

主催:武蔵野大学教育学部教育学科
内容:「ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら」
対象:大学生
派遣者:松倉紗野香
実施形態:対面

11 「港区「地域で育む日本語学習支援プロジェクト」」
(2025-06-28/計 1 回)

主催:一般財団法人港区国際交流協会
内容:「バーンガ」

対象:一般・不特定の市民
派遣者:伊藤容子
実施形態:対面

12 「愛知万博 20 周年記念事業」(2025/7/12,13/計 3 回)

主催:愛知万博 20 周年記念事業実行委員会
内容:「ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら」、
「服 ファッション」
対象:一般・不特定の市民
派遣者:伊藤容子、佐藤友紀
実施形態:対面

13 「(福岡県・NPO)運営力向上セミナー」(2025-07-15/計 1 回)

主催:認定 NPO 法人アカツキ
内容:講義「事務局長の役割」
対象:NGO・団体職員
派遣者:中村絵乃
実施形態:オンライン

14 「多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー」(2025-08-05/計 1 回)

主催:神戸 YMCA
内容:「ジェンダー視点で教育を見直すヒント集」
対象:一般・不特定の市民
派遣者:佐藤友紀
実施形態:対面

15 「教師海外研修事前研修」(2025-08-09/計 1 回)

主催:JICA 九州
内容:開発教育、ファシリテーション研修
対象:教員・教育関係者
派遣者:中村絵乃
実施形態:対面

16 「専門学校」(2025-08-14/計 1 回)

主催:学校法人河合塾学園専門学校トライデント
内容:アクティブラーニング
対象:企業・会社員
派遣者:中村絵乃
実施形態:対面

17 「令和 7 年度海外研修事業」(2025-08-18/計 1 回)

主催:公益財団法人全国商業高等学校協会

内容:「地球の食卓」

対象:高校生

派遣者:中村絵乃

実施形態:対面

18 「国際理解教育実践セミナー・教師海外研修事後研修」
(2025-08-23/計 1 回)

主催:JICA 筑波

内容:問いつくり、教材づくり

対象:教員・教育関係者

派遣者:松倉紗野香

実施形態:対面

19 「教職員向け 人権研修」(2025-08-26/計 1 回)

主催:横浜市立緑園義務教育学校

内容:「ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら」

対象:教員・教育関係者

派遣者:伊藤容子

実施形態:対面

20 「国際理解ワークショップ:世界がもし 100 人の村だったら」
(2025-09-13/計 1 回)

主催:延山小学校 PTA

内容:「ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら」

対象:小学生および保護者

派遣者:中村絵乃

実施形態:対面

21 「日本 YMCA スタッフ研修ステップ II 講義「YMCA の活動を SDGs の視点から考える」」(2025-09-26/計 1 回)

主催:日本 YMCA 同盟

内容:SDGs

対象:NGO・団体職員

派遣者:伊藤容子

実施形態:対面

22 「Global Workshop A」(2025-10-07/計 1 回)

主催:ノートルダム女学院中学高等学校

内容:「ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら」

対象:高校生

派遣者:佐藤友紀

実施形態:対面

23 「龍谷大学「国際 NGO 論」」(2025-10-18/計 1 回)

主催:(特活)関西 NGO 協議会

内容:「スマホから考える世界・わたし・SDGs」

対象:大学生

派遣者:佐藤友紀

実施形態:対面

24 「中高生ボランティアプロジェクト」(2025-10-19/計 1 回)

主催:東京ボランティア市民活動センター

内容:「ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら」

対象:高校生

派遣者:伊藤容子

実施形態:対面

25 「外国人の人権」(2025/10/23,29/計 2 回)

主催:山梨民主医療機関連合会

内容:「難民」

対象:職員、医療従事者

派遣者:松川清美

実施形態:対面

26 「「新 貿易ゲーム」」(2025-10-31/計 2 回)

主催:甲南中学校

内容:「新 貿易ゲーム」

対象:中学生

派遣者:佐藤友紀

実施形態:対面

27 「職員向け多文化共生研修」(2025-11-14/計 1 回)

主催:横浜市栄区役所地域振興課

内容:多文化共生

対象:自治体・公務員

派遣者:中村絵乃

実施形態:対面

28 「ニュースで開く探究の扉」(2025-11-15/計 1 回)

主催:朝日新聞社

内容:メディア・リテラシー

対象:教員、一般
派遣者:松倉紗野香、中村絵乃
実施形態:対面

29 「地域育成者フォーラム」(2025-11-22/計 1 回)
主催:目黒区青少年委員会
内容:「ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら」
対象:一般・不特定の市民
派遣者:-中村絵乃
実施形態:対面

30 「ICA 海外協力隊体験談にプラスα!派遣国での生活体験をもとに、異文化理解を深めるワークショップをつくろう」(2025/11/29,12/21/計 3 回)
主催:JICA 山梨
内容:「レヌカの学び」、教材作成支援
対象:協力隊 OV
派遣者:中村絵乃、松川清美
実施形態:対面

31 「NPO 次世代の担い手育成事業」(2025-12-06/計 1 回)
主催:群馬 NPO 協議会
内容:「おとな・ユースのアクティブ・シティズンシップ教育ハンドブック」
対象:一般・不特定の市民
派遣者:中村絵乃
実施形態:対面

32 「2025 年度第 2 回勉強会ワークショップ」(2026-02-21/計 1 回)
主催:栃木県国際理解教育ネットワーク勉強会
内容:「服 ファッション」
対象:教員・教育関係者
派遣者:鈴木啓美
実施形態:対面

33 「2025 年度開発教育・国際教育セミナー」(2026-02-28/計 1 回)
主催:JICA 関西
内容:チョコレートの教材
対象:教員・教育関係者

派遣者:佐藤友紀
実施形態:対面

34 「基礎課程演習など」(2025/5 月~11 月/計 8 回)
主催:聖心女子大学グローバル共生研究所
内容:難民・ジェンダー・気候変動・平和
対象:大学生
派遣者:中村絵乃、伊藤容子、近藤牧子、鈴木啓美
実施形態:対面

35 「高校生向け研修」(2025/7 月/計 4 回)
主催:聖心女子大学グローバル共生研究所
内容:難民・ジェンダー・気候変動・平和
対象:高校生
派遣者:中村絵乃、伊藤容子、近藤牧子、岩岡由季子
実施形態:オンライン

35 「中学生向け研修」(2026-03-30/計 1 回)
主催:聖心女子大学グローバル共生研究所
内容:「ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら」、気候変動
対象:中学生
派遣者:中村絵乃
実施形態:対面

36 「医療専門学校教員研修講義「国際理解教育論」」(2025-08-26/計 4)
主催:医療研修財団
内容:開発教育
対象:専門学校教員
派遣者:近藤牧子
実施形態:オンライン

37 「市民活動論」(2025/4/16-7/16/計 14 回)
主催:早稲田大学
内容:開発教育
対象:大学生
派遣者:中村絵乃
実施形態:対面

以上